



# 2014年 耕さない田んぼの稲づくり塾

南阿蘇の耕さない田んぼは、阿蘇の山々に生い茂る草木が育む空気、日量数十万トンの阿蘇の湧水、高原ならではの昼夜の大きな温度差など、稲づくりに最適な地の利を持っています。

そんな恵まれた環境では、比較的短期間で『耕さない田んぼには 生きものがいっぱい』を体験でき、観察する機会が希になった田んぼのホタル、ヘイケボタルの乱舞に癒されたり、珍しくなったミズカマキリやニホンイモリなどに遭遇したり、絶滅危惧種のシャジクモなどの植物が観察できます。

耕さない田んぼの稲づくり塾は、岩澤信夫先生に教わった稲づくりの理論や手法を踏襲しながらも、温暖な地域ならではの気候風土に適合させつつ、①耕さない田んぼ歴7年目の田んぼが季節を追って変化する様、力強く生長する稲、多様な田んぼの生きものなどの観察、②要所での実作業の体験、③稲の生理、耕さない田んぼでの稲づくりの理論の座学（月毎にまとめられた稲づくり塾ノートと紹介資料および参考資料）、などで構成されています。

“ただ単に農薬や肥料を使わないのではなく、それらに頼らない稲つりの仕組みを理解し”、“自分の目で確かめ”、“実作業を体験し”、“田んぼの生きものと共生する、環境に優しい稲づくり”を学びます。

また、個々の田んぼ環境に適した管理計画とこの稲づくりならではの管理手法の理解を助ける、新旧の研究成果（e.g. ミネラル、土壌微生物、イトミミズやカエルなどの小動物や植物の生態、など）も学びます。

塾入会金	2,000円（有効期間1年間）		
受講費用	一般塾生	63,000円	年間受講（with 塾修了証 <sup>①</sup> ）
	└with 収穫米 <sup>②</sup>	15,300円	年間受講者限定のオプション
	└同伴 <sup>③</sup> 塾生	36,000円	年間受講（with 塾修了証 <sup>①</sup> ）
	└同伴 <sup>③</sup> SPOT	4,300円	1日当り（要予約、受講10日前）
	研究塾生 <sup>④</sup>	36,000円	年間受講（with 研究修了証 <sup>①</sup> ）
	研究塾生 <sup>④</sup> SPOT	4,300円	1日当り（要予約、受講10日前）
	一般SPOT	7,000円	1日当り（要予約、受講10日前）
通信費用：800円（FAXもしくはPCメール[pdfファイル]の受信が不可能な方のみ）			
注記	① [修了証]は全課程の80%以上に出席した方が対象になります。		
	② [収穫米]は玄米30kg[18,000円相当]、入塾申込時に限り選択可能です。		
	③ [同伴]は同居する夫婦もしくは親子に限定されます。		
	④ [研究塾生]は同塾を修了された方で、更に探求されたい方が対象です。		
募集人数	塾生約20名まで	開催期間	2014年01月～11月
実習田	南阿蘇の田んぼB&C	講義	はらっば・ラボの一角にて
主催と連絡先	はらっば・ラボ 入請外 憲市(いりうけます けんいち) 熊本県阿蘇郡南阿蘇村河陰4486-19 携帯：090-1194-0361 FAX：0967-67-3278 email：k.iriukemasu@gmail.com		

主催者のプロフィール

◇1958年：沖縄県与那国島で生まれ、高校まで沖縄で育つ。東京で大学を卒業後、IT業界に20数年従事。その後、断ち切れない自然環境への憧れを具体化するため南阿蘇村に移住。

◇2008年：千葉県神崎町で開催された自然耕塾と苗づくり研修会を修了。

◇南阿蘇で耕さない田んぼの稲づくりを始めて、今年で7作目。

◇2011年：耕さない田んぼの稲づくり塾を始めて4年目。

◇稲づくり農家としては、まだまだ駆け出しだが、耕さない田んぼで育まれる生きもの物語に魅了され、普及活動にも時間を割きながら、稲づくりに奮闘中。

- 注記
01. 農具や農業機械の作業体験や見学となれない作業が伴うため、入塾には傷害保険への加入が必須条件になっています。
  02. 塾開催日の集合場所およびはらっば・ラボまでの交通手段の確保および交通費は各自の負担になります。但し、電車通塾をご検討の方で、最寄り駅（南阿蘇鉄道・阿蘇下田駅）からの送迎については、ご相談ください。
  03. 大変恐縮ですが、お子様をお預かりする環境が整っていないため、お子様連れでの参加はお断りしています。
  04. 申込み手順は、『募集要項』の＜塾申込手順について＞の参照をお願いします。
  05. 募集は申込み順に受け付けられ、定員になり次第、締め切られます。また、年間受講は途中からでも入塾可能です。
  06. 参考図書として「不耕起でよみがえる（岩澤信夫著、創森社）」（はらっば・ラボでも購入可）を、稲づくり未経験者向けの参考図書として「週末の手植え稲づくり（横田不二子著、農文協）」を推奨しています。
  07. 苗や稲の栽培管理や田んぼ管理などの実作業を通して、理解を深めたい方は、遠慮なくお申し出ください。
  08. ゴミ袋等を持参の上、『来た時よりも美しく運動』への参加をお願いします。
  09. 当日の持ち物や服装として、雨天時のほ場見学や実習作業に備えてカッパやゴム長靴を予めご用意ください。
  10. 連日で日程が組まれている際の宿泊施設は紹介しますが、宿泊施設の確保と宿泊に伴う費用負担は各自になります。

## 2014年 耕さない田んぼの稲づくり塾の日程表

月日・時間	観察・見学と講義内容の予定
01月25日(土) 10:00-15:00	塾で観察対象となる耕さない田んぼで稲株やいきもの観察
	オリエンテーション
	第1課程：総論「耕さない田んぼ」
02月01日(土) 10:00-16:00	実習：低温育苗ハウス、塩水選、浸種
	第2課程：成苗づくり（低温育苗Ⅰ）
03月01日(土) 10:00-16:00	実習：播種作業の準備 (作業予定時間 10:00-12:00、自由参加)
	実習：コシヒカリの播種作業 (作業予定時間 13:00-16:00、自由参加)
03月08日(土) 10:00-16:00	観察：暖かくなった耕さない田んぼの変化、播種後8日目の苗
	実習：温度管理、発根状態の確認、観察記録
	第2課程：成苗づくり（低温育苗Ⅱ、暖地での苗づくり）
03月22日(土) 10:00-16:00	観察：播種後22日目の苗
	実習：温度管理、発根状態の確認、追肥、観察記録
	第3課程：稲の生長特性／田植えの準備
04月05日(土) 10:00-16:00	観察：耕さない田んぼの水生植物や生きものの変化
	見学：育苗管理（プール育苗&ハウス育苗）
	第4課程：耕さない田んぼの栄養分と施肥技術
04月26日(土)※ 10:00-16:00	観察：田植えした田んぼの様子&移植した苗
	見学：不耕起用田植機と田植え（田植えは前日までに実施済み）
	第5課程：栄養生長
17:00-19:00	懇親会 (飲食費別途、自由参加)
04月27日(日)※ 10:00-16:00	実習：補植、観察用稲の手植え
	第6課程：耕さない田んぼの機能と特異現象
06月07日(土)※ 10:00-16:00	オリエンテーション：生きもの調査の目的と調査の仕方
	実習：田んぼの生きもの調査（他のグループも参加）
	17:00-19:00
19:00-20:00	ヘイクボタルの見学会 (他のグループも参加、自由参加)
06月08日(日)※ 10:00-16:00	観察：移植した苗（4月下旬と5月下旬）の比較
	実習：除草（草取り、鎖除草、竹ぼうき除草）
	第7課程：栄養生長／生殖生長への転換期
07月05日(土) 10:00-16:00	観察：観察用稲の生育（葉齢、分けつ、など）と雑草の生育
	実習：幼穂と葉色の見方、畦の除草や畦から侵入する草の除草
	第8課程：生殖生長
08月02日(土) 10:00-16:00	観察：出穂した稲、有効・無効分けつ茎の生育
	実習：観察用稲の出葉数、分けつ茎数、止め葉、などの調査
	第9課程：登熟
09月06日(土)※ 10:00-16:00	観察：収穫期の稲穂および田んぼ全体の状態
	見学or実習：コンバインによる稲刈り（実作業は別日程にて実施）&手刈り
	第10課程：収穫
10月04日(土) 10:00-16:00	観察：稲刈り後の田んぼの様子
	実習：冬期湛水の準備作業（ミネラルと米ヌカの散布、等）
	第11課程：冬期湛水と準備
11月08日(土) 10:00-16:00	観察：冬期湛水田の生きもの様子と切り株（根と葉）
	見学：ライスセンター（粃の乾燥、粃摺り等の施設）の見学
	第12課程：耕さない田んぼの稲づくりのまとめ
17:00-19:00	懇親会 (飲食費別途、他のグループや次年度の塾生候補者も参加、自由参加)
11月09日(日) 10:00-15:00	収穫祭：収穫祭の準備
	収穫祭：食事の部（新米の食べ比べ等） (飲食費別途、家族友人歓迎、持ち寄り歓迎)
	収穫祭：修了式の部（修了証の授与）

注記 11. 「耕さない田んぼの稲づくり塾」の日程は、稲の生長に合わせて計画しています。  
 気象条件により、見学ほ場や実習場所、時間や日程が変更されることがあります。  
 特に、※印が付加された日程は稲の生長に大きく左右されるため、1週ほど、前後する可能性があります。